

I 2012年度認証評価における指摘事項（努力課題）

該当なし

II 2016年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

キャリアデザイン学研究科は、2013年度に新たに設置された比較的新しい研究科であり、教育内容を段階的に充実・深化させている。特に、キャリアデザイン学会、大学院シンポジウムの開催、論文構想発表会・中間報告会を開催しており、その成果として、学位授与率はほぼ100%であり、2年間における学位取得率も90%と非常に高い点は、組織的な取り組みとして、他の研究科の模範となる成果であり、大変優れたものと評価できる。

学生の全員が社会人であるものの、3年間の入学定員充足率の平均は93.3%であり、非常に適切に管理されており、2016年度に定員充足率100%を達成した点は、高く評価できる。また、2017年度入試に向けて研究計画書に関する説明会を行うなど、志願者のニーズに応じた対応を行っていることも評価できる。ただし、大学院教育では理論と実証を重視することから就業経験が応募条件の一つになっており、就業経験のない学部生には卒業後すぐの大学院受験が無理と言えるが、学部生の時に将来的なキャリア教育という点からの組織的な教育を行うなどの方策を、研究科として模索することを期待したい。

大学院生の研究内容のグローバル化は進展しているものの、外国人留学生の受験者が少ないという点は国内の少子化の影響として今後問題になってくる可能性が高いため、出願要件の就業経験などの周知をする努力をしながら、現在学生でない別の分野の外国人留学生確保の努力も望みたい。今後とも学生の質を担保しつつ教育研究のグローバル化へのさらなる進展を期待したい。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

2015年度より、調査研究法（基礎科目）担当の教員、および産業・組織心理学（共通科目）担当の教員が新たに採用された。また、2016年度末に定年退職した教員の補充として、2017年度より、職業キャリア政策論（ビジネスキャリアプログラム科目）担当の教員が採用され、さらに、2018年度着任を目指して調査研究法（基礎科目）担当教員の人事案件が進められており、コースワークとしてのカリキュラムは更に充実しつつある。修士論文指導は、担当教員による指導だけではなく、研究科の他教員からも論文構想発表会・中間発表会などにおいて、詳しくフィードバックを受ける機会があり、担当教員による個別指導と、研究科全体での集団指導の両面において、院生の研究指導をきめ細かく丁寧に実施している。学部との連携に関しては議論が行われており、学部と大学院の連携を主題とした学部・大学院執行部懇談会や、学部・大学院拡大懇談会等が開催されている（2015年度）。継続して今後の検討課題としたいが、2017年度には、キャリアデザイン学部卒業生が就業経験を積んでからキャリアデザイン学研究科を受験し合格したというケースが出現した。こうしたケースが今後いっそう増えていくことを期待したい。研究科のグローバル化に関しては、留学生の応募者は存在するが、厳正な入試の結果、入学には至っておらず、今後も継続してグローバル化へ向けた努力課題とする。たとえば、その施策として、外国籍で働いている人が関心を持つテーマをシンポジウムで扱う、あるいは、海外拠点の多い企業の人をシンポジウムに招く、または、外国籍の子どもたちを支援するNPOの人をシンポジウムに招くなど、実現可能性のあるアイデアが、2016年度第2回質保証委員会で議論された。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

キャリアデザイン学研究科では、2017年度より、職業キャリア政策論（ビジネスキャリアプログラム科目）担当の教員が採用され、さらに、2018年度着任を目指して調査研究法（基礎科目）担当教員の人事案件が進められるなど、コースワークとしてのカリキュラムのさらなる充実が図られている。

2017年度には本学部卒業生が就業経験を積んだ後、本大学院を受験・合格するというケースが出現したということであるが、こうしたケースの増加あるいは留学生の受入れなどの課題については、継続的な検討がなされることが期待される。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

| | |
|---|--|
| ①質保証委員会は適切に活動していますか。 | はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> |
| 【2016年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。 ・質保証委員会だけでなく、常に定例教授会においても、機会あるごとに質保証に関する話し合いや点検を実施し、積極的な意見交換や問題提起を行い検証を行っている。また年2回開催の質保証委員会では（2016年度は、2016年5月20日と2017年3月17日）、授業改善アンケート、修士論文評価と指導の在り方、外国籍の大学院生の受け入れ、調査法授業の展開の仕方、グローバル化に対応したシンポジウムのアイディア等に関する議論を行い、研究科の質保証を意識した委員会活動、具体的な取り組みを実施している。 | |

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|------|---------|
| 特になし | |

【この基準の大学評価】

| |
|---|
| キャリアデザイン学研究科では、質保証委員会が年度初めと年度末の2回開催され、質保証に関する適切な取り組みがなされている。 今後の質保証活動においては、授業改善アンケート、修士論文評価と指導の在り方、外国籍の大学院生の受け入れ、調査法授業の展開の仕方、グローバル化に対応したシンポジウムといった様々な取り組み等の適切な実施と検証に向けて、執行部との連携が期待される。 |
|---|

2 教育課程・教育内容

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

| | |
|--|--|
| 2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。 | |
| 【学位授与方針】 | |
| 「経営学、教育学と隣接する学問分野をバックグラウンドにした個人のキャリアの学際的な解明」、「企業、公共団体、NPO、大学・高校などでキャリア支援を担う高度職業人の養成」という教育理念を踏まえ、学位授与にあたっては、学際的な専門知識をベースにしながら、自らの職業経験を生かした研究課題を設定し、社会調査の手法を駆使して、実証的な課題解明ができることを重視する。 | |
| ①研究科（専攻）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。 | はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> |
| 2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。 | |
| 【教育課程の編成・実施方針】 | |
| 基礎・共通科目をベースにキャリア教育・発達プログラム、ビジネスキャリアプログラムの2分野のプログラムを設置している。 それぞれのプログラム科目には、キャリア発達科目群、キャリア・プロフェッショナル科目群、キャリア政策可科目群という、ミクロ・メゾ・マクロの3分野からなる科目群を配置している。 それらの科目の履修の上で演習科目において修士論文指導を行う。 | |
| ①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。 | はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> |
| ②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。 | はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> |
| 【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。 ・募集要項、ホームページ、シンポジウム、進学相談会、シラバス等 | |
| ③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。 | S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> |
| (～400字程度まで) ※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。 | |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性に関しては、大学院教授会において、機会あるごとに定期的に振り返り、全教員参加の討議を通して、当面の課題を整理し改善提案を行い、実行可能な所から具体的に行動に移している。また、学生による「授業改善アンケート」結果からも研究科のあり方や適切性を検証する貴重な資料として精査し検討を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・授業改善アンケート

2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。 S A B

(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

当研究科は①キャリア養育・発達キャリアプログラム、②ビジネスキャリアプログラムの2つのプログラムより編成され、各プログラムに対応するプログラム科目が設置されている。コースワーク基礎科目、共通科目が設置され、その上でリサーチワークに対する個別指導(修士論文指導、演習)を行っている。教育課程を体系的に編成し、関心のある研究テーマを掘り下げることが可能となるように綿密に組み立てられている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・キャリアデザイン学研究科 カリキュラム

②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。 はい いいえ

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・博士課程を設置していない

③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。 S A B

(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

博士課程を設置していない

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

該当なし

④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。 S A B

(～400字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

これまで兼任であった「キャリア調査研究法基礎」は、2015年、専門性を有する教員を新たに採用した。また「産業・組織心理学」は専門性の高い教員を同じく2015年に採用した。調査研究法や心理学関連科目を一層充実させ、専門分野の高度化に対応した教育内容を提供している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・キャリアデザイン学研究科 シラバス

⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。 S A B

(～400字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。

留学生の応募者も数名だが存在するが、当日入試を突然棄権したり、また、残念だが入学合格基準を満たす質の高い留学生の応募者がいないのが現状である。キャリアデザイン学研究科は、学生の質を重視し質保証の観点からも、現在留学生は存在せず、研究科のグローバル化には至っていない。今後は合格基準を満たす質の高い留学生の応募を期待し、入学チャンスを与え、グローバル化を積極的に推進したいと考えている。日本語運用能力が十分あり、就業経験も有しており、かつ本研究科で研究に取り組むことに強い意欲がある留学生がいる場合には、積極的に受け入れたい。

最近では院生の研究内容には、外資系企業の経営戦略など、グローバルな内容に関する研究が増えており、研究内容でのグローバル化は進展している。今後も継続してグローバル化へ向けた取り組みを行うため準備に着手している。たとえば、その施策として、外国籍で働いている人が関心を持つテーマをシンポジウムで扱う、あるいは、海外拠点の多い企業の人をシンポジウムに招く、または、外国籍の子どもたちを支援するNPOの人をシンポジウムに招くなど、実現可能性のあるアイデアが、2016年度第2回質保証委員会で議論されている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

| | |
|--|--|
| ① 学生の履修指導を適切に行っていますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学直後のオリエンテーションの時に、大学院要項、講義要項を参考にしながら、大学院での2年間の学習を展望した履修指導を行っている。シラバスに基づき、その場で全教員が授業概要を具体的に説明し、履修指導を適切に行っている。 | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学研究所 シラバス、新入生ガイダンス資料 | |
| ②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ |
| <p>【研究指導計画の明示方法】 ※箇条書きで記入（ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す（学位取得までのロードマップの明示等））。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記に述べたように、新入生ガイダンスでは学習指導を詳しく行い、修士論文執筆に至る流れや学位取得への過程、学位取得基準を詳しく説明している。ガイダンス後には、その日の午後に開催されるM2の修士論文構想発表会に入学直後の1年生全員を参加させ、研究発表を聞かせている。そこでは、M2の研究テーマと概要一覧を配布し、大学院での今後の研究の計画・進め方の具体的参考とさせている。 | |
| <p>【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生ガイダンス資料 | |
| ③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ |
| <p>(～400字程度まで) ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <p>新入生には具体的な学位授与基準をオリエンテーション時に明示し、学位取得に至る過程について詳しく説明を行っている。また、年3回(MIの研究構想発表会1回、M2の研究構想発表会、中間発表会合計2回)の修士論文構想発表会・中間発表会を全教員、全学生参加のもとで開催している。この発表会を、キャリアデザイン学研究所における院生の研究に対する集団指導の場としている。その後、研究計画に基づき、担当教員が個別に指導を実施し、修士論文作成指導を丁寧実施している。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし | |
| ④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ |
| <p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容については、執行部が詳しくダブルチェックし、改善すべき点があれば直ちに校正を行っている。また、学生による授業改善アンケート結果を詳しく分析し、シラバスに関し指摘されている課題は、教授会の議題として詳しく取り上げ、全教員で課題を共有しシラバスの検証を絶えず行っている。 | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし | |
| ⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ |
| <p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <p>学生からの授業改善アンケート内容については、上記のように教授会で全教員が共有し、シラバスに沿って適正に授業が行われているかの検証を行っている。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし | |
| 2.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。 | |
| ①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は各教員が責任をもち厳正に単位認定を行っている。論文審査については主査(1)・副査(2)が審査を担当し、口述試験後は審査結果を主査、副査で照合し、相互に率直な意見交換を行い最終評価を厳正に行い可否を決定している。 | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし | |
| ②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ |
| <p>【学位論文審査基準の明示方法】 ※箇条書きで記入。</p> | |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

| | |
|---|--|
| <p>・学位基準は2011年に教授会において決定し学位授与基準を明確化している。学生には、入学後のガイダンスにおいて、学位基準を詳しく説明し明示している。また、修了生の修士論文集として「研究成果物」を冊子やCD-ROMにまとめ、院生全員に配布しており、学位論文の審査基準は成果集を通して明示し、あらかじめ学位基準に関する理解を促している。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称および冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <p>・キャリアデザイン学研究科「研究成果物」</p> | |
| ③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。 | はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| <p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・学位授与基準に基づいた厳正な論文審査を行うことにより、学位水準を適正に維持する努力を常に行っている。修士論文提出者に対する学位授与率はほぼ100%である。また学位取得までの年限は約90%強が2年間の修士課程を経て学位を取得している。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p> | |
| ④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> B |
| <p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>入学時の新入生ガイダンスにおいて、学位基準を周知徹底させ学習に取り組みさせている。年3回の修士論文構想発表会・中間発表会の場において、厳しいフィードバックを行い研究科一丸となって、高い研究水準を維持する取り組みを実施している。また、修士論文審査は主査(1)、副査(2)に加え、同席しているプログラム内の他教員も加わり審査を行い、それを教授会全体で承認するという手続きを行い、論文審査における適正性を確保し、学位水準の維持を努力するための取り組みを行っている。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p> | |
| ⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> B |
| <p>【修士】 (～400字程度まで) ※責任体制および手続等の概要を記入。</p> <p>学位授与基準に基づいた厳正な論文審査を行うことにより、学位水準を適正に維持する努力を常に行っている。修士論文審査は主査(1)、副査(2)に加え、同席しているプログラム内の他教員も加わり審査を行い、それを教授会全体で承認するという手続きを行っている。主査・副査を基軸としそれを含む教授会全体の責任体制のもとで、論文審査における適正性を確保し、学位水準の維持を努力するための手続きを執り行っている。</p> | |
| <p>【博士】 (～400字程度まで) ※責任体制および手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入してください。</p> <p>該当なし</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p> | |
| ⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。 | はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| <p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・キャリアデザイン研究科の学生は、現職を有する社会人のみであるため、入学時に学生の勤務先を把握している。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p> | |
| <p>2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p> | |
| ①学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> B |
| <p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。</p> <p>各授業内では個別の研究発表、討論、事例研究発表、課題提出などを実施し、学生に多様な研究発表の機会を与え、授業の理解度、その成果等を随時把握している。上記に述べたように、年3回の修士論文構想発表会・中間発表会においては、研究の進捗度や研究の深化レベル、研究の質を定期的に把握し指導を行っている。他に、修了生の学会発表、学会誌への論文投稿、出版物などからも、大学院での学習、研究成果を測定している。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> | |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

| | |
|---|---|
| ・院生・修了生の学会発表、論文一覧 | |
| 2.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。 | |
| ①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>(～400 字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入</p> <p>各授業内では個別の研究発表、討論、事例研究発表、課題提出などを実施し、学生に多様な研究発表の機会を与え、授業の理解度、その成果等を随時把握している。上記に述べたように、年 3 回の修士論文構想発表会・中間発表会においては、研究の進捗度や研究の深化レベル、研究の質を定期的に把握し指導を行っている。他に、修了生の学会発表、学会誌への論文投稿、出版物などからも、大学院での学習、研究成果を測定している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・修士論文構想発表会・中間発表会の一覧表</p> | |
| ②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>学生による授業改善アンケート結果を執行部 2 名がまず詳しく検討し、その内容を教授会において全教員で共有し、各教員に結果をフィードバックしている。教育成果、教育内容・方法などの改善内容を教授会にて議論し、組織的に学生からの授業改善アンケート結果を有効に活用し、絶えず教育、指導の質的向上努力を熱心に行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p> | |

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし | |

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1) および(2) の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

| |
|--|
| <p>グローバル化へ向けた取り組みを今後も継続して行うため準備に着手している。たとえば、その施策として、外国籍で働いている人が関心を持つテーマをシンポジウムで扱う、あるいは、海外拠点の多い企業の人をシンポジウムに招く、または、外国籍の子どもたちを支援する NPO の人をシンポジウムに招くなど、実現可能性のあるアイデアが、2016 年度第 2 回質保証委員会で議論されている。</p> |
|--|

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (2.1～2.2)

| |
|--|
| <p>キャリアデザイン学研究科では、教育理念を踏まえ、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針が設定されている。これを実現するための教育課程については、基礎・共通科目をベースとした 2 分野のプログラムを設置し、それぞれのプログラム科目には 3 分野からなる科目群を配置するなど、系統的な教育課程が編成されており、概ね適切である。</p> <p>教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針については、研究科ホームページやパンフレットなどを通じて周知・公表されている。また、これら方針の適切性については、定期的に教授会での検討されるほか、学生による「授業改善アンケート」結果の精査などを通して、検証が行われている。</p> |
|--|

②教育課程・教育内容に関すること (2.2)

| |
|--|
| <p>キャリアデザイン学研究科は、2 つのプログラムと各プログラムに対応したプログラム科目が設置されており、コースワーク基礎科目、共通科目の学習からリサーチワークに対する個別指導(修士論文指導、演習)へと進む体系的な教育課程が編成されており、コースワークとリサーチワークが適切に組み合わせられている。また、2015 年度には、これまで兼任教員が担当していた科目に専門性を有する教員を採用するなど、専門分野の高度化に対応した教育内容が提供されている。</p> <p>大学院教育のグローバル化推進については、留学生がいない現状にあるが、院生の研究内容において、外資系企業の経営戦略などが取り上げられ、分野的にも海外への関心が着実に高まっていることが推察される。2016 年度第 2 回質保証委</p> |
|--|

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

員会で議論されたというグローバル化に向けての検討が、今後実現されることが期待される。

③教育方法に関すること (2.4)

キャリアデザイン学研究科では、新入生へのオリエンテーションをはじめとして、年3回の論文指導を全教員、全院生参加のもとで開催するという集団指導と、担当教員による個別指導という、研究指導計画に基づく丁寧な学位論文指導が行われており、適切である。

シラバスについては、執行部によるダブルチェックを実施し、学生による授業改善アンケートにおけるシラバス関連の記載をチェックするなど、シラバスの適切な作成およびシラバスに沿った授業の実施に向けての組織的な取り組みがなされており、適切である。

④学習成果・教育改善に関すること (2.5～2.7)

キャリアデザイン学研究科では、各教員の責任のもと単位認定を行い、論文審査については主査・副査が審査を担当し、口述試験後に審査結果を主査、副査で照合するなど、審査の適切性の確認が行われている。また、主査・副査に加えて、プログラム内の他教員も加わり審査を行い、それを教授会全体で承認するなどして、学位の水準を保つための取り組みがなされるとともに、学位授与に関する責任体制及び手続きの明確化が図られており、概ね適切である。

学位論文審査基準については、入学後のガイダンスにおいて詳しく説明し明示するなど、学生への周知がなされている。

学生の学習成果の把握・評価については、授業内及び年3回の修士論文構想発表会・中間発表会を通して、研究の進捗度や研究の深化レベルを定期的に把握している。

また、学生による授業改善アンケート結果について、教授会において共有するなど、組織的な利用がなされており概ね適切である。

3 学生の受け入れ

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

企業や公共団体、NPO、大学・高校などの機関で人事・教育・キャリア支援などを担当する方や、キャリアコンサルタントとして、より高度な専門職を目指している方などを対象とした受け入れ方針を取っている。

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 学生の受け入れ方針に基づき学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。

S A B

(～200字程度まで) ※取り組み概要を記入。

学生募集に関しては、ホームページ、募集要項、進学相談会、大学院シンポジウムなど、あらゆる機会を通して入学志願者に対し詳しい入試情報を提供している。

入学選抜試験には全教員が関わり、受け入れ方針に基づいて公正な入試を実施している。入学試験結果に関しては、結果を全教員が注視し、結果の分析を行い、志願者と入試傾向、その課題を全員で共有し合い絶えず入学者選抜について検証努力を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・募集要項、ホームページ、シンポジウム、進学相談会

3.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

定員の充足率に関しては、2013年105%、2014年95%、2015年85%、2016年100%、2017年85%と推移している。5年間の平均は94%である。質を厳しく担保しつつも定員充足率を適正に管理している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・下記定員の充足率表参照

定員充足率（2012～2016年度）（各年度5月1日現在）

| 種別\年度 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 4年平均 |
|---------|------|------|------|------|------|
| 入学定員 | 20名 | 20名 | 20名 | 20名 | |
| 入学者数 | 21名 | 19名 | 17名 | 20名 | |
| 入学定員充足率 | 1.05 | 0.95 | 0.85 | 1.00 | 0.96 |
| 収容定員 | 20名 | 40名 | 40名 | 40名 | |
| 在籍学生数 | 21名 | 40名 | 37名 | 38名 | |
| 収容定員充足率 | 1.05 | 1.00 | 0.93 | 0.95 | 0.98 |

※定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】大学院研究科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合の提言指針】※改善勧告なし

| 提言 | 努力課題 |
|---------|--------|
| 修士・博士共通 | 2.00以上 |

【定員未充足の場合の提言指針】※改善勧告なし

| 提言 | 努力課題 |
|----|--------|
| 修士 | 0.5未満 |
| 博士 | 0.33未満 |

3.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

学生募集はホームページ、パンフレット、入学相談会、大学院シンポジウムなど、あらゆる機会を通して入学志願者に詳しい入試情報を提供している。2016年度からは、研究計画書に関する説明会を行い、志願者の入学後の研究に関する質問に対し、具体的な対応を行っている。入学者の選抜には全教員が携わり、入試結果の詳しい分析を行い、志願者とその傾向や課題を全員で共有し、入学者選抜に関する検証をその都度行っている。結果、2016年度は定員充足率100%を達成し、2017年度も85%という高い水準を維持することができた。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし | |

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

| |
|-------|
| ・特になし |
|-------|

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科では、ホームページをはじめ、各種媒体、相談会等で入試情報の提供が適切に行われている。定員の充足率に関しては、2017年度までの過去5年間における入学定員充足率の平均は94%と高い充足率を維持している。高い充足率は、入学者の選抜に全教員が携わり、入試結果の詳しい分析を行い、志願者とその傾向や課題を全員で共有し、入学者選抜に関する検証をその都度行うなどのきめ細かな取り組みによるところが大きいと推察され、こうした活

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

動が今後とも継続されることが期待される。

4 教員・教員組織

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【求める教員像および教員組織の編制方針】 (2011年度自己点検・評価報告書より)

キャリアデザイン学という学際的な領域の性格上、経営、教育、文化、心理の専門分野の教員組織で教育・研究指導を行なうことが教員組織の編制方針であり、教員には経営、教育、文化、心理の専門領域での学識に加えて、各領域を横断する学際的な研究・指導のセンスと実績がもとめられるところである。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

・2011年に大学院担当教員の基準を明記、資格要件、求める能力・資質を明確化している。基準に基づき高度な専門性、優れた業績をもつ研究者、調査・研究の指導が可能な教員を採用し適正に配置している。

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【研究科執行部の構成、研究科内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

・執行部は研究科長、専攻副主任の2名から構成され、大学院教授会は月1回開催されている。その他の教員の担当する役割分担は次の通りである。質保証委員、進学相談委員、入試サポート委員（入試当日の事務担当）、入試作問委員、シンポジウム委員、修士論文構想発表会・中間発表会委員、修士論文研究成果集作成委員など、各教員の担当する役割とその内容を明確化し責任体制をとり適正に実行している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・キャリアデザイン学研究科 2017年度役割分担一覧表

4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①研究科（専攻）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

キャリアデザイン学研究科は2つのプログラムより構成されている。ベースには基礎科目、共通科目を配置している。これらを担当する教員は高い専門性を有した教育学、経営学、隣接学問分野（心理学・社会学）等の教員であり、当研究科のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えている。2015年度より、調査研究法（基礎科目）担当の教員、および産業・組織心理学（共通科目）担当の教員が新たに採用された。また、2016年度末に定年退職した教員の補充として、2017年度より、職業キャリア政策論（ビジネスキャリアプログラム科目）担当の教員が採用され、さらに、2018年度着任を目指して調査研究法（基礎科目）担当教員の人事案件が進められており、キャリアデザイン学研究科のカリキュラムに適合的な教員組織を編制している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・キャリアデザイン学研究科 要項、履修手引き、カリキュラムと担当教員一覧

・下記、2016年度研究指導教員数一覧（専任）を参照

2016年度研究指導教員数一覧（専任）

(2016年5月1日現在)

| 研究科・専攻 ・課程 | 研究指導 教員数 | うち教授数 | 設置基準上必要教員数 | |
|---------------|-------------|-------|-------------|-------|
| | | | 研究指導 教員数 | うち教授数 |
| 修士 | 17 | 13 | 5 | 4 |

研究指導教員1人あたりの学生数：2.24人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】(～200字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

教員採用に関しては、学部の教員採用とも密に関係づけながら、若手研究者を積極的に採用しており年齢的偏りはない。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

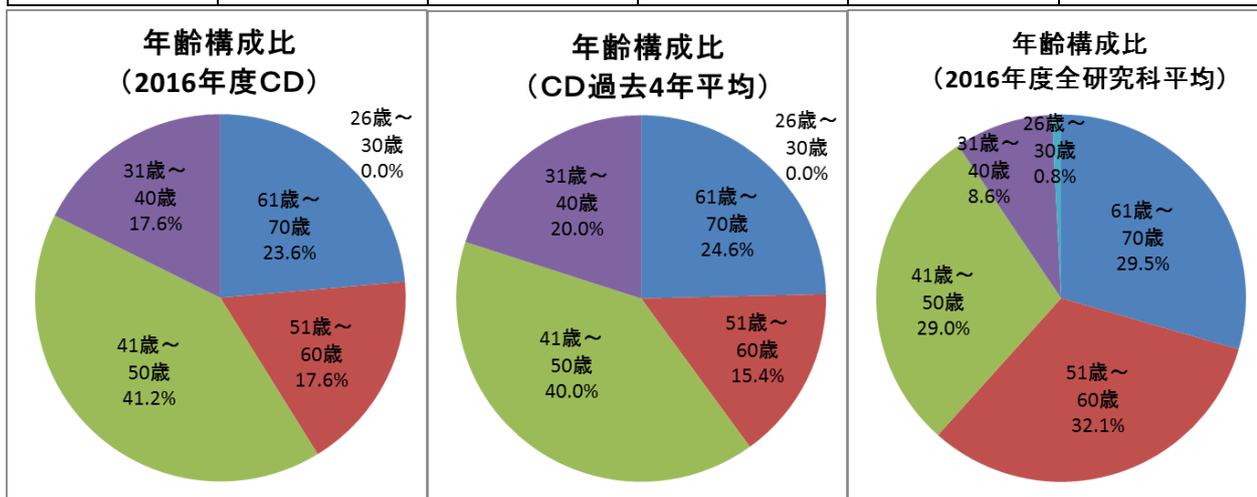
※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・特になし、下記専任教員年齢構成一覧参照

専任教員年齢構成一覧

(5月1日現在)

| 年度\年齢 | 26～30歳 | 31～40歳 | 41～50歳 | 51～60歳 | 61～70歳 |
|-------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 2016 | 0人 0.0% | 3人 17.6% | 7人 41.2% | 3人 17.6% | 4人 23.5% |



4.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

① 大学院担当教員に関する各種規程は整備されていますか。 はい いいえ

【根拠資料】※大学院担当教員に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

・当研究科では2011年に大学院担当教員の基準を明確化し規定を整備している。規定に基づき適切に教員募集・任免・昇格は行われている。

② 規程の運用は適切に行われていますか。 はい いいえ

【教員の募集・任免・昇格に関する学部教授会との連携体制】※教員の募集・任免・昇格に関し、学部教授会とどのような連携が行われているか概要を箇条書きで記入。

・学部の専任教員採用の時には、大学院教育担当も兼ね大学院教育可能な研究者であることを前提とした採用を行っている。募集に際し、専門領域と大学院カリキュラムとの整合性を同時に勘案しつつ規定を参照しながら、大学院教授会において意見交換し、結果を学部の教員採用人事に反映している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・教員の募集・任免・昇格に関するキャリアデザイン学内規

4.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

① 研究科（専攻）内のFD活動は適切に行われていますか。 S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

・法政大学キャリアデザイン学会を独自に開催しており、広く学外にも公開しキャリア関連の研究者、実務家など先端的な研究業績を有する研究者等を講演者に招聘し、学会活動を積極的に推進している。教員、院生、修了生、学内外の人々などと相互の自己研鑽を積極的に促進している。

【2016年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

・キャリアデザイン学会の活動実績資料を参照

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・キャリアデザイン学会活動実績資料

② 研究活動を活性化するための方策を講じていますか。 S A B

【研究活動活性化の取り組み】※箇条書きで記入。

・法政大学キャリアデザイン学会の開催、大学院シンポジウムの開催、全教員・全院生参加による修士論文構想発表会・中間発表会の開催等により、積極的に研究活動を活性化するための方策を講じている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・キャリアデザイン学会活動実績資料、大学院シンポジウム資料

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし | |

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

| |
|-------|
| ・特になし |
|-------|

【この基準の大学評価】

| |
|---|
| <p>キャリアデザイン学研究科では、大学院担当基準により教員の資格要件等を明確にするとともに、役割分担一覧表により、研究科内の役割分担や責任体制も明確にされており、適切に取り組まれていると判断できる。</p> <p>また、キャリアデザイン学研究科は2つのプログラムからなり、これらのプログラムには、高い専門性を有した教育学、経営学、隣接学問分野（心理学・社会学）等の教員が適切に配置されている。</p> <p>これらの教員の採用に関しては、規定に基づき、適切に教員募集・任免・昇格が行われている。</p> <p>FD活動については、法政大学キャリアデザイン学会を独自に開催し、キャリア関連の研究者、実務家など先端的な研究業績を有する研究者等を講演者に招聘するなどして、積極的に推進している。</p> |
|---|

5 学生支援

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

| | |
|--|---|
| 5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。 | |
| ①研究科（専攻）として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>(～400字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。</p> <p>キャリアデザイン学研究科の応募者には留学生も存在するが、実際には入学には至っていない。このため、修学支援は行っていないが、今後、留学生の入学者がいる場合には、修学支援を丁寧に行う予定である。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p> | |

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし | |

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

| |
|-------|
| ・特になし |
|-------|

【この基準の大学評価】

| |
|---|
| <p>キャリアデザイン学研究科には現在留学生がいないため、今後の留学生の受け入れおよび修学支援の取り組みに期待したい。</p> |
|---|

IV 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

該当なし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

該当なし

【大学評価総評】

キャリアデザイン学研究科では、2017 年度より、職業キャリア政策論（ビジネスキャリアプログラム科目）担当の教員が採用され、さらに、2018 年度着任を目指して調査研究法（基礎科目）担当教員の人事案件が進められるなど、コースワークとしてのカリキュラムのさらなる充実が図られている点が評価できる。

大学院教育では理論と実践を重視することから就業経験が応募条件の一つになっており、学部生が大学院に進学する上でのハードルとなっているが、2017 年度にはキャリアデザイン学部の卒業生が就業経験を積んだ後、本大学院を受験し合格するというケースが出現している。今後は、学問領域の特性を勘案したうえで学部と大学院の連携を図るとともに、大学院教育のグローバル化といった視点から、留学生の受け入れについても継続的な検討がなされることが期待される。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。